

フィンランド2

■Espoo ホスマリンピスト学校

エスポー市の人口は25万人弱で、フィンランドで2番目に大きな都市である。移民の子どもが多い地域とのこと。

ここではじめに訪問したのはホスマリンピスト学校。この学校は保育園を併設し、プレ・スクールと1、2年生までの実験的な学校である。日本からの見学者も多いようだ。



すでに校庭では教師が隠した単語カードを子どもたちがチームで見つける授業が始まっていたり、大型の観光バスで校外学習に出かけるクラスがあったりする一方で、大型タクシーで登校してくる子どもたちもいる。日によって、クラスによって始業の時間が違うこの国では当たり前の風景なのだという。

まだ校長先生も出勤されていなかった。校長先生の出勤を待つ間、外で校舎を眺める。2005年秋に建設されたヨーロッパ最大の木造校舎。建物はOECD諸国の学校建築ベスト50に選ばれた。その後見学した室内にもふんだんに木材が使われていた。



はじめに校長から講義があった。

校舎は、学校のスペース、保育園のスペース、そして美術室、体育館、図書館などの共有スペースからなっている。保育園には1歳から5歳児が約100人（午前中はプレ・スクールで午後は保育園という幼児も含む）、学校はプレ・スクール6歳児と1、2年生で171人の児童がいる。エスポー市では保育園にプレ・スクールをおいているところもあるが、ここでは学校にある。

フィンランドではすべての子どもに教育を保障するために、病院の中での学校教育や訪問教育も実施されているとのこと。特別な支援を必要とする子どもには個別の指導計画をつくることになっている。母国語がフィンランド語あるいはスウェーデン語でない子どもには独自のカリキュラムをつくることになっている。

今年は知的障害の子どもはいないが、以前はいたこともある。現在、学習の障害があつて特別な支援を必要とする子どもたちが42人いる。その中で大きな割合を占めているのが移民の子どもたちで、40人以上（30か国の国籍）いる。彼らには母国語の授業を受ける権利があるので、たとえ少数であっても、周辺の学校の児童と一緒にグループを作って保障している。また、宗教の自由も保障されているので、宗教の時間も6種類を用意している。多様性を尊重し、どの子にも等しく教育を保障しようとするフィンランドの教育の一端がうかがえた。

この学校は、幼児と低学年の児童に特別な支援を手厚く保障することを大切にしている。そのことが子どもたちの将来の学習や生活を充実させるために重要だからである。

学校は保育園と協力してカリキュラムをつくらせている。プレ・スクールでは学校の職員と保育園の職員と一緒に働いている（午前中は学校、午後は保育園）。

保育園では年齢に応じたクラス編成をしているが、子どもの実態（特別な支援の必要性）に応じたクラス編成も行っている。学校では、プレ・スクールと1、2年生だけなので、学年別ではなく子どものニーズに応じたグループ編成を行っている。移民の子どもと通常の子どものをインテグレートをしているが、移民の子どもだけのクラス（グループ）や特別な支援を必要としている子どもだけのクラス（グループ）もつくるなど多様なグループ編成を行っている。また、このグループをさらに少人数に分けて指導することもある。

肢体不自由の障害児学校に長年勤めている私にとっては抵抗なく受けとめられる話であった

が、同一学年でのクラス編成という日本の通常学級ではなかなかイメージできない話であろう。

実際に校内を見せてもらうと、文字だけでなくシンボルを使って子どもに見通しを持たせる工夫がいたるところでされていた。

また、学校の方では20名程度の学級規模であるのに、広い廊下に机と椅子が置かれ、そのスペースを使ってさらに半分のサイズの学習が行えるようになっていた。



■電子黒板

案内をしてくれた校長先生はしきりに各教室に設置された電子黒板を見せたがった。この学校の“ウリ”の一つなのであろう。

各教室に配置されていた。インターネットとつながって、国営放送の番組や教材のコンテンツの提供がしっかりとサポートされている様子が見て取れた。

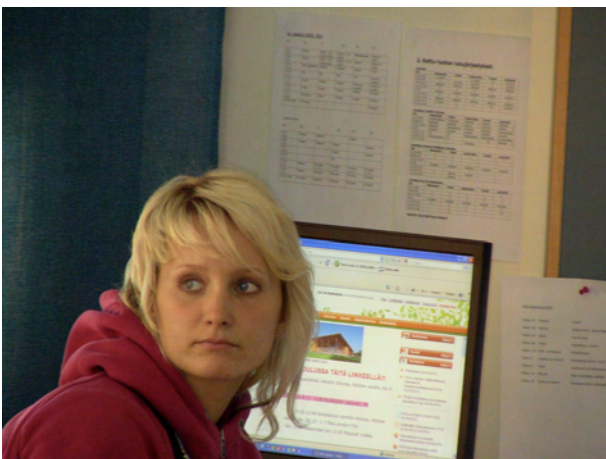
電子黒板自体は珍しいものではない。日本でも景気対策の一環で各校に何台か配られ、私の勤める学校にもある。しかし、果たして有効に活用されているだろうか？

機器が有効に活用されるためには、教材（コンテンツ）のサポートが必要不可欠である。この国



には教材コンテンツづくりで現場の教師をサポートする組織（CSCL）があると聞いている。

また、この教室を見て感じたことだが、クラスのサイズも重要な要素である。40人の学級規模では低学年の子どもを電子黒板に集中させることは難しい。



■給食

最後に、この学校の給食を食べた。一食 0.7 ユーロ（約 80 円）の予算でつくっているということを知っていたので、どんなものだろうと思って

いたが、なかなか立派なものである。ビュフェ形式で、魚と野菜、ポテト、パン、クラッカー、チーズ、ヨーグルト飲料を選んだ。



食堂から出ることのできる中庭のテラスもすてきだ。

